

近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (①修06-07-2/5)

目 的

近代の文化遺産は、従来の文化財とは、規模、材質など大きく違い、その保存方法や使用材料なども同様に違いがある。本研究では、その様な近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。また、保存修復だけでなく活用方法についても調査研究を行い、保存の方法や修復の進め方などにおいてよりよい状態で保存できるようにすることを目指している。

概 要

今年度は近代化遺産の利活用に関する手法や問題点をテーマとして研究会を行った。イギリスから航空機担当の主任学芸員兼主任技術者を、また、海から引き揚げられた旧日本軍機の修復作業を担当された方、日本航空協会からは、所沢の航空発祥記念館に所蔵されている、91式戦闘機の保存修復に携わっておられる方などを招いて、航空機の保存と活用に関する研究会を実施した。さらに、ドイツ技術博物館の修復責任者を招いて、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する双方の研究結果を検討し国内における実地調査を実施した。加えて、同修復責任者と共同で研究している合成樹脂の劣化に関する検討会も実施した。

屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

・調査施設

所沢航空発祥記念館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地、知覧特攻記念館、万世特攻平和祈念館、富岡製糸場、端島、原爆ドーム、広島市交通科学博物館、広島市原爆資料館、長崎市原爆資料館、鉄道博物館、日本橋、読書発電所、桃介橋、小樽市総合博物館、柵原ふれあい鉱山公園、京都市琵琶湖疎水記念館、琵琶湖疎水、南禅寺、三菱重工長崎造船所資料館、ドイツ技術博物館、ドイツ海洋博物館、ドイツ鉱山博物館、ドイツ国鉄博物館

研究会の開催件数 1件

・第21回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 「航空機の保存と活用」 東京文化財研究所 08.1.25

学会、研究会等での発表 2件

・Shunsuke Nakayama, Country Report -Japan-, BIG STUFF '07, Beyond Conservation - Industrial Heritage Management, Deutsches Bergbau Museum, 07.9.12

・中山俊介 「航空機の保存と活用」 第21回研究会「航空機の保存と活用」 東京文化財研究所 08.1.25

報告書 3件

・『近代化遺産の修復のための諸問題』 東京文化財研究所 48p 08.3

・『鉄道遺産の活用』 東京文化財研究所 95p 08.3

・『初代南極観測船「宗谷」の文化的価値及び保存修復に係る調査研究 報告書』 東京文化財研究所 107p 08.3

研究組織

○川野邊渉、中山俊介、森井順之、高橋真実子、高尾曜（以上、保存修復科学センター）、朽津信明（文化遺産国際協力センター）、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）